

■●受験対策ミニ講座 15号 2018■●

今年も残すところあとわずかとなりました。慌ただしい時期ですが、意識して時間を生み出し、もうひと頑張りして新年を迎えましょう。秋からスタートした「受験対策ミニ講座」ですが、年内は今回で終了し、1月は二週目頃から再スタートします。

今回のコラムは"家族"をテーマとしてみました。お忙しい中とは思いますが、どうぞ最後までお付き合いください。

【問題 15 27回 18】

家族と世帯に関して正しいものを1つ選べ。

- 1 世帯とは、主として家計と住居を同じくする人々からなる集団である
- 2 世帯には非親族員は含まない
- 3 国勢調査の調査単位は、世帯ではなく家族である
- 4 同一家族メンバーが、複数の世帯に分かれて暮らすことはない
- 5 家族と暮らしていない単身者は、準世帯と定義される

正解と解説は最後に記載しています。

■Plus Column

【ポスト平成への宿題】

"家族"の概念は時代と共に変わります。多くの人がイメージする「家族」は「近代家族」といわれ、明治以降に定着してきた家族形態のひとつに過ぎません。一方、"世帯"は、大正6年に国勢調査を行なうために作られた統計上の概念で、「住居と生計を共にしている人の集まり」とする定義は、100年後の現在の国勢調査でも使われています。

今年、国際的な賞を受賞した是枝裕和監督の映画「万引き家族」は現代日本の家族を描いた作品です。リストラにあう中高年、孤独な高齢者、放置される子ども、行き場のない若者...登場人物たちは、たくさんの社会問題の存在を予感させます。

大人になった被虐待児が歩む道、DV被害から逃れた後の暮らし、罪を償った後の生活、「JKビジネス」といわれる風俗産業とそこにやってくる傷ついた若者たち等。未だ名付けられていない、たくさんの問題の中に懸命に、あるいは淡々と生きている人々...ここには間違いなく、今の日本社会のある一面が描かれています。

物語が進むにつれて、この家族は「生計と住居を共にしている」だけの不安定な擬似家族であることがわかっていきます。それでも貧しいながらも温かい食卓を囲み、海辺に遊び、互いの心の傷を癒し合います。家族がもっているはずだった（あるいはそのように期待されていた）機能を十分に果たして余りある家族であることに、この映画の救いがあります。

ポスト近代といわれ、価値観が多様化する時代にあえて「家族」を問いかけるこの作品は、ソーシャルワーカーに求められていることを深く、鋭く問いかけているようにも思えます。

平成という時代が終わる来年、様々な問題が少しでも良い方向に向かうことを願いながら、静かに除夜の鐘を聞きたいと思います。みなさま、どうか健やかに、良いお年をお迎えください。

■Back Number

過去のバックナンバーはこちら→http://www.aigo.or.jp/yoseijo/?page_id=2686

【問題 15 27回 18 正解と解説】

- 1 ○
- 2 ×正しくは、非親族を含む場合もある。例えば住み込みの人、ルームシェアなども同一世帯。
- 3 ×正しくは、国勢調査の調査単位は世帯。
- 4 ×正しくは、何らかの理由で離れて暮らす家族員はすべて別世帯。

5 ×正しくは、単身者も一世帯。準世帯は1980年まで使われていた分類。現在は「一般世帯」と「施設等の世帯」が用いられている。

※掲載内容の転載・再配布はご遠慮ください。

※メール内容に対する個別の対応は行っておりません。

※問い合わせ等については社会福祉士養成所ホームページより行えます。

〒105-0013 東京都港区浜松町 2-7-19KDX 浜松町ビル 6F

Copyright2016 YoseijoNewsplus